

# TIMES マニュアル



## ペニューリーダー

おかやす いつみ  
080-4116-5426

いまむら ともや  
070-1568-7769

## プロダクトマネージャー

たまき しんすけ (展示)  
080-3055-8694

にしだ みちこ (INFO)  
090-9996-6632

# ドレスコード

服装は、全体として**肌の露出が少ないもので、作品より目立たない節度ある身だしなみ** を心がけてください。

TIMESはコンクリート造りのため冷える可能性あり 各自 **防寒対策を**

色の指定なども特に起こりません。

暑さ寒さ対策を最優先にお持ちのものでご対応ください このために新たにご用意いただかなくて大丈夫です

足も疲れない、動きやすいものが最適です。

⚠ 全体としてNG

- ・ミニスカートなどの露出の多いもの(危険な目にあいかねません)
- ・ダメージジーンズ
- ・サンダル、ハイヒール
- ・第二ボタン以下の開衿(肌の露出を伴う)

# 最寄駅からのマップ



京阪本線「三条」駅 徒歩3分

市営地下鉄東西線「三条京阪」駅 徒歩3分

「京都市役所前」駅 徒歩4分

⚠ TIME'Sに駐輪場はありません!

近くに有料駐輪場があるので

そちらを利用してください

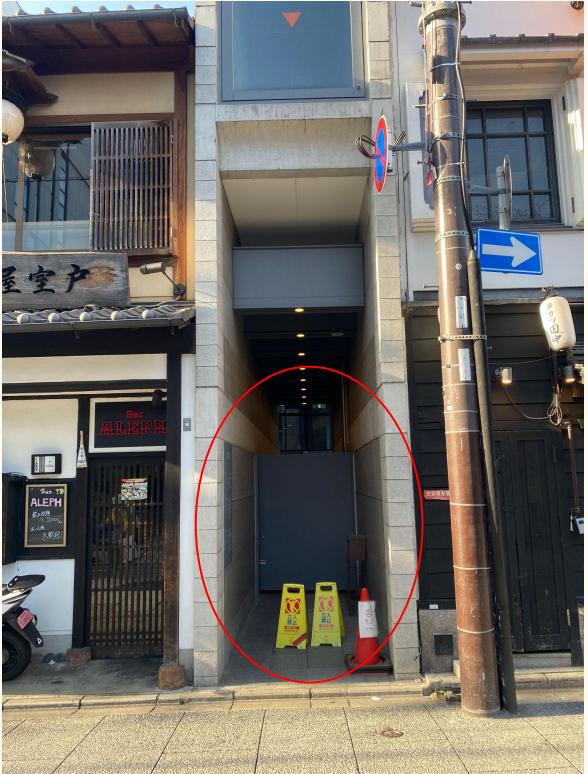
# 最寄りの駐輪場



リノパーキング[フェリチタ三条附置義務駐輪場]

※TIMES正面ではなく、裏の通りにあります

## スタッフ用入口

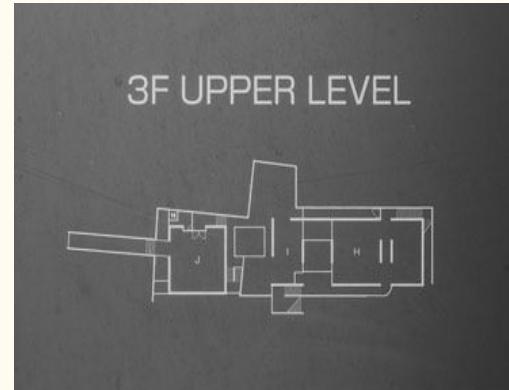


スタッフは西木町通方面の裏口から



集合場所は入り口を入ってすぐのところ

# 会場概要／展覧会場 MAP



※基本的に2階のみ  
車いす対応可能

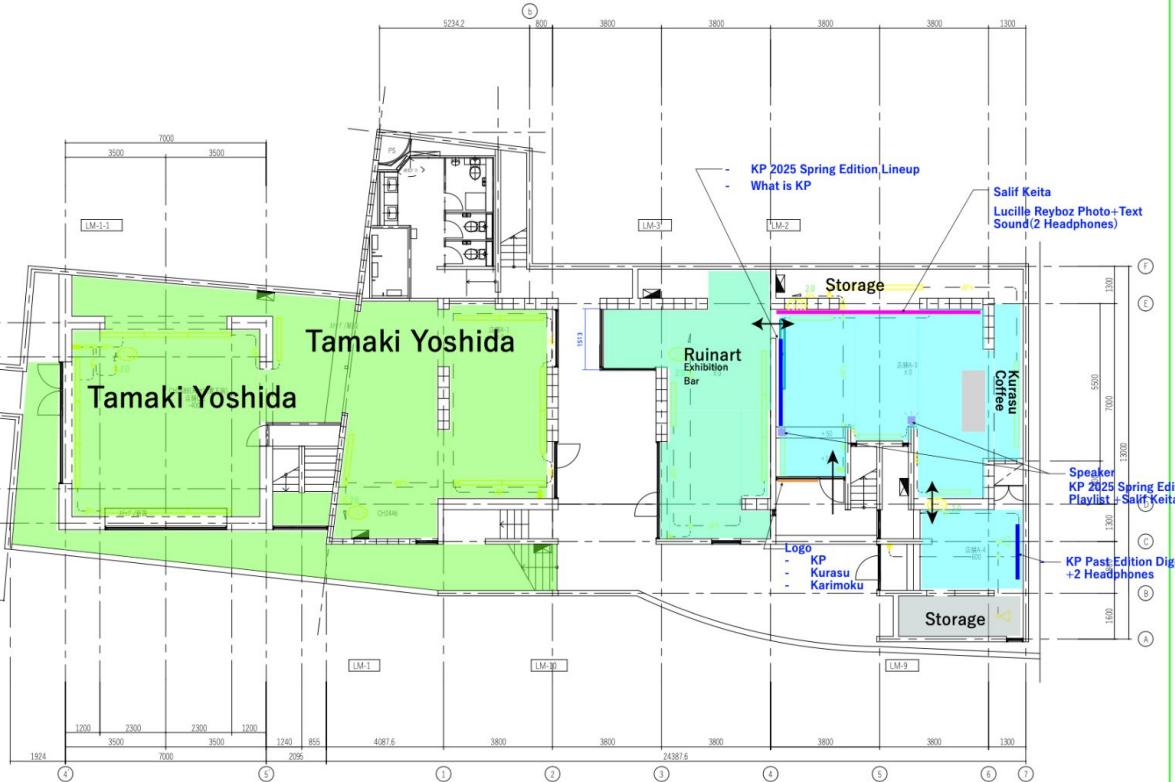
1階も、スタッフ余裕があれば、  
協力して降ろして  
見ていただく

1階 □田多麻希 / Cafe/ Kyotophonie 展示 観覧無料

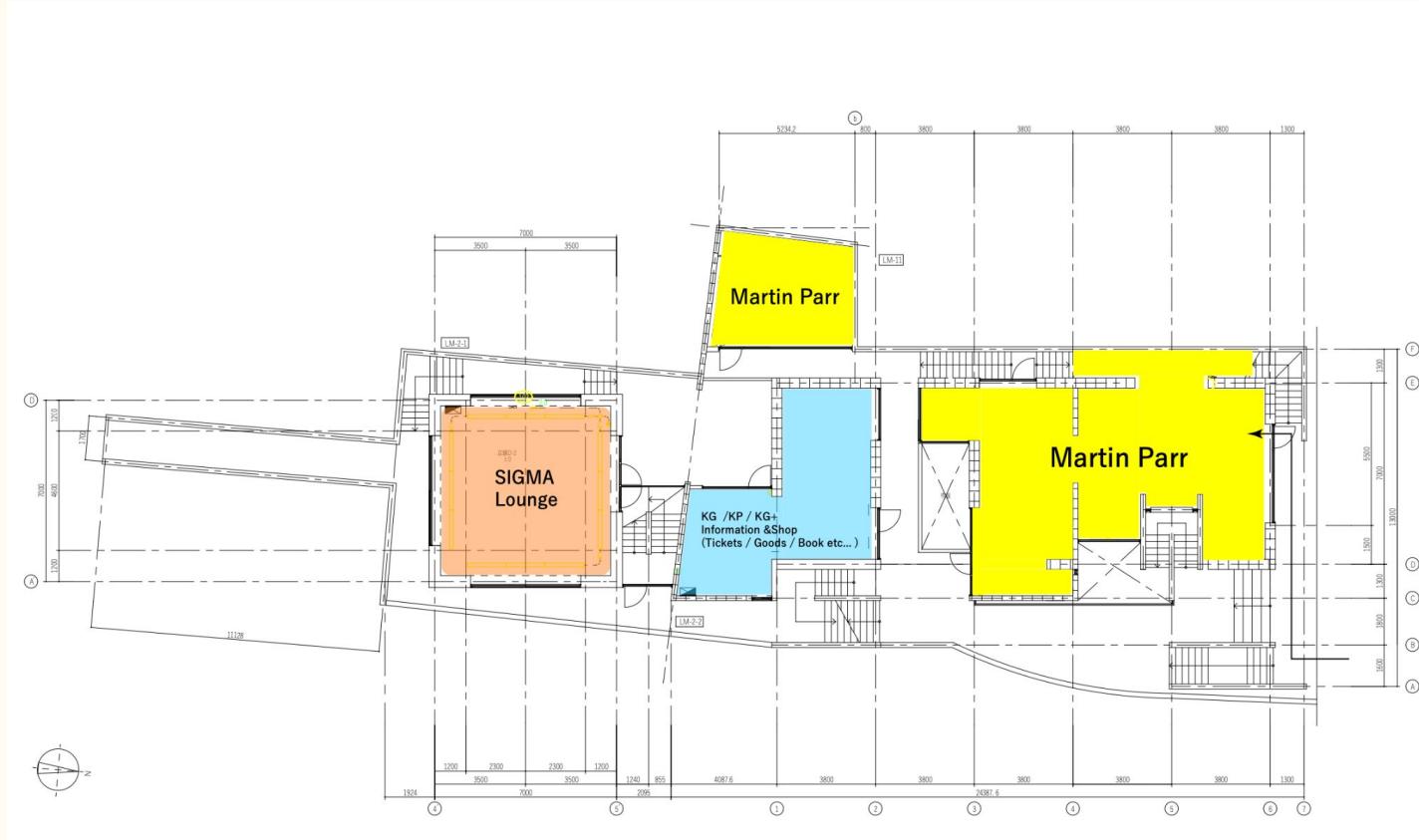
2階 Martin Parr(マーティン・パー) 有料 大人¥1,000 学生 ¥800

3階 パブリックプログラム (朝礼にて当日開催の有無・内容を共有します。イベントが無い際は閉めておくこと)

1F 詳細



2F 詳細



# お手洗い



1F 女子トイレ  
地下1F 男子トイレ

※スタッフ, お客様共有

よく問い合わせがあるので、  
場所と動線の確認をお願いします。

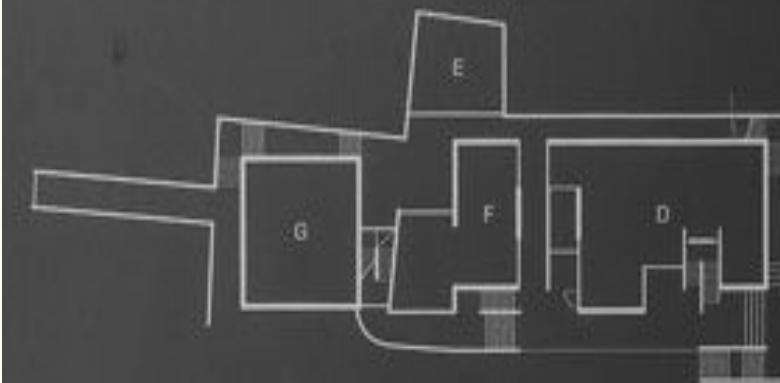
また、毎日清掃するようお願いします

## スタッフポジション・看視場所

1F RIVER LEVEL



2F STREET LEVEL



# 会場の特殊事情

建物内には、無料会場(1F)と有料会場(2F)があります。

**⚠ Martin Parrの単館チケットは 2F受付で販売！**

入り口→そのまま有料会場にいらっしゃった方に声かけ必須

# 開場中オペレーション(配置場所ごとの注意点、やること、声かけ方法などのポイント)

## 1F

無料会場だが、来場者のカウントが必要

手元に来場者カウント用のQRコードを準備し、来場者に応じて読み取る

## 2F

マーティンパーの展示の列と、隣接する指輪の店舗の列が重なり、混同する可能性あり。

列の整理を常に心がけておくことと、単館チケットをお持ちか確認すること

持っていないければINFOへ案内

## 3F

パブリックプログラムスタッフがいるため、基本的に管理する必要なし

(TIMESでは主にアーティストが作品について語るイベント)開催中は、

それを目当てにしてきているお客様を3Fへ誘導する必要あり

- ・開場時・閉場時のチェック項目

- ・鍵の保管場所や開け方
- ・音響機器の付け方

・機材の立ち上げ・シャットダウン方法

KYOTOPHONIEの関連の展示が1Fにて  
音響系の展示となり、毎日立ち上げ・シャットダウン作業必要  
※準備期間にて要確認

・雨天時オペレーション

# 展示概要・作品について

## 11A: Martin Parr(マーティン・パー)

### Small World

In collaboration with Magnum Photos

セノグラファー: 寺田英史+ 的場愛美 (tamari architects)



1952年、イギリスのサリー州エプソム生まれ。1994年よりマグナム・フォトに所属。もっとも個性的といえる視覚芸術のアーティストのひとりであり、写真家、映像作家、コレクターとして一時代を築いている。

ヴィヴィッドな色と難解な構図で知られるパーは、日本、アメリカ、ヨーロッパ、そして母国イギリスなど、世界各地の文化の特性を研究し1985年以降は中国にも足繁く通っている。レジャー、消費、コミュニケーションといったテーマを辛辣な皮肉とともに長年探求している。

パーはこれまでに100冊以上の書籍を刊行し、30冊の書籍を編集。世界各地で個展やグループ展を多数開催し、ソニーワールドフォトグラフィーアワード特別功労賞(2017年)、エーリッヒ・ザロモン賞(2006年)、ボーム&メルシェ賞(2008年)など、パーのキャリアと現代写真への貢献が認められ、これまでに数多くの賞を受賞している。パーは2014年に財団を設立し、イギリスとアイルランドをテーマに作品を制作している新進気鋭の写真家や、これまで注目される機会がなかった写真家を支援している。

KYOTOGRAPHIE2025ではマスツーリズムをテーマに、長年世界中で撮影してきたユーモアたっぷりの作品に加え、開催直前に京都で撮影された新作を同時に発表する。

10: □田多麻希

## 土を継ぐ—Echoes from the Soil

Ruinart Japan Award 2024 Winner Presented by Ruinart

セノグラファー: 小高未帆(APLUS DESIGNWORKS)



コマーシャルフォトグラファーとして多くの企業で活躍する傍ら、常々感じていた自然と人との関係の不平等さを見つめ直すべく2018年よりプロジェクトをスタート。どこか他人事になりがちな大きな問題からではなく、より身近な視点から人と自然や生き物の関係を問いかけるのが□田のスタイルだ。現在は、生活排水による環境問題や、近年頻発している人と野生動物の事故などをテーマにしたプロジェクトに取り組んでいる。これらのプロジェクトにおいて□田は、生き物の悲劇的な側面に焦点を当てるのではなく、人間の思考方法や無意識の行動に固執することに疑問を投げかけ、人と生き物の新たなバランスを模索することを目指している。

2024年、KYOTOGRAPHIEインターナショナルポートフォリオレビューの参加者より受賞者が選ばれる「Ruinart Japan Award 2024」を受賞。同年の秋にフランスを訪れレイナールのアーティスト・レジデンシー・プログラムに参加し制作した作品を発表する。